

## 陸上自衛隊と海兵隊が悪天候の中での最終演習を決行



悪天候を突いて二機のオスプレイが日米合同訓練に投入され、両軍隊員の搬送を勤めました

【滋賀県饗庭野(あいばの)演習場】海兵隊員が迷彩柄のフェイスペイントを施して任務に備える光景は、ハリウッド映画で何度も演じられてきました。

スクリーンで第三海兵師団のような海兵隊員を見掛けることはほとんど有りませんが、悪天候の中、彼らは陸上自衛隊員と共に軽歩兵訓練に参加しました。

陸上自衛隊中部方面隊第37普通科連隊と海兵隊は、饗庭野演習場で実施された日米二カ国総合訓練に参加し、海兵隊の新型輸送機オスプレイが悪天候の中使用されました。日本本土でオスプレイを使った訓練も陸上自衛隊がオスプレイを用いた訓練に参加するのも今回が初めての試みでした。

陸上自衛隊と在日米海兵隊は二カ国間のパートナーシップを深め、地域の安全保障協定を強化し、部隊および個人レベルのスキルを高めるために年に2回、演習フォレスト・ライトを実施しています。

ケニー・クラーク三等軍曹は、「フォレスト・ライトは、二カ国の軍事行動で自分たちの能力を評価できる素晴らしい機会です。改善が必要なことや同盟国に提供できることを確認します。この演習は私たちにとっても、太平洋地域で今後共同軍事行動に関わる際にも大いに役立ちます」と話しています。

模擬の敵の要塞を確保する任務を遂行するために、海兵隊員と自衛隊員が連携し、海兵隊員が訓練場を巡回し、自衛隊員と落ち合って訓練が始まりました。

自衛隊員たちが入り口を確保するために慎重に急勾配の丘を下り、海兵隊員たちが空砲を使って模擬の敵陣に制圧射撃を加えて攻撃を開始しました。その直後、海兵隊員たちは自衛隊員たちの後を追って丘を下り、建物に侵入しました。

ライフル兵、マシュー・シェパード上等兵は、「言葉の壁に奮闘しました。最終演習をやり終えるために先週訓練で学んだ知識や戦術を使わなければならなかったのです、お互いに学び合えて良かったです」と話しています。

夜には激しい雨に加え風が強くなり気温も下がり、翌朝にかけて悪化し続けた天候は隊員たちに更なる課題を与えました。

撤退要求の指示を受けると、2機のオスプレイが両軍の撤収に飛来してきました。

訓練担当官のチャッド・バッケル大尉は、フォレスト・ライトの反復訓練にオスプレイが関与することの重要性は計り知れないと話しています。

そして今回の任務遂行は、日米関係を大幅に促進しました。

演習を終えると、ずぶ濡れで体が冷えていたものの、武器を降ろして、お互いに訓練の成功を喜び握手を交わした日米両隊員たちの顔からは達成感が伺えました。